

第4章 ヨシ帯の維持管理の現状

4-1 各主体の概要

4-1-1 西ノ湖のヨシ生産業者

かつて西ノ湖周辺では、ヨシ産業が盛んであった。「近江ヨシ」として知られる西ノ湖のヨシは、皮のあるところとないところの色境が鮮やかな、艶のある美しいヨシで、茶の文化や京文化に欠かせないものとして重宝されてきた。ⁱ「昔はヨシは1尺3寸を10把、直径13センチのやつを10個なんですよ、それでだいたい米1俵とかけおうたんですよ。今の米じゃないですよ。昔の食糧難の時代のお米でということ、それだけヨシに付加価値があったんですよ。」(竹田さん)といわれるほどヨシの価値は高かった。

昭和30年代頃から50年頃までは、すだれの地場産業であった西ノ湖も、昭和48年の中国の国交正常化、生活様式の変化、西ノ湖の水質悪化によりヨシ産業は衰退してきた。

生産業者の数も30年程前は50件以上あったヨシ産業も今では15、6件程になっている。

原因は中国からの安価なヨシ製品が出回ったこと、生活様式の変化、水質悪化によるヨシの品質の低下、後継者問題である。

「それも水がきれいだったからいいヨシの中から悪いヨシを出したらそれだけの値段がついたんですよ。今は水が汚いから、悪いヨシの中からのいいヨシを出すんですよ。そしてそれが普通やったら。良いヨシの中から悪いヨシのとったらそれでよかったんやけど、今は悪いヨシの中から良いヨシをとっても皮をむいたら汚れてるからまたその中からのいいヨシを出していかなあかん。悪循環。」(竹田さん)

「補助金を出すだけではヨシ職人もヨシもこれ以上は守れないと私は思います。ヨシの付加価値が高くなり、人々にとってその存在感が大きくなるのが先決なんです。」ⁱⁱ

平成4年にヨシ群落保全条例が制定されたが、ヨシ生産業者にとって、かえって土地の売買に規制がかかるなど困るという。ヨシ生産業者が存続できる根本的な解決策は今のところない。

4-1-2 大津市（市民ヨシ刈り・地域のヨシ刈り）

(1) 大津市の概要

大津市は、日本のほぼ中央に位置する滋賀県の西南部にある。(図4-1：大津市の位置)

京阪神、東海、北陸を結ぶ交通の要衝にあり、古くから人と物資の交流によって栄えてきた。

大津市の湖辺は、近年の都市化の進展より、自然の姿が失われつつあるが、西岸を中心に18.5haのヨシ帯が

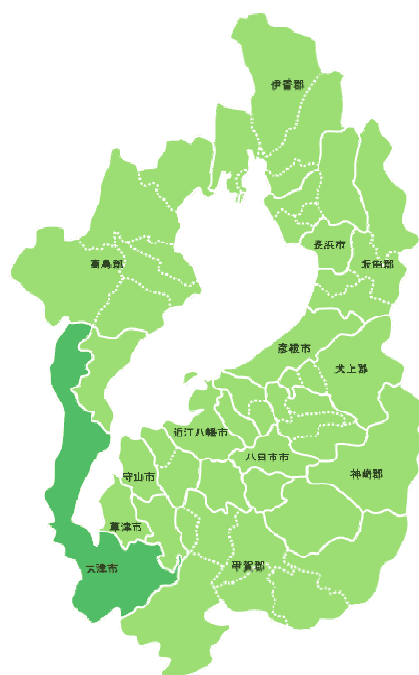


図4-1 大津市の位置

残っている。

(2) 大津市のヨシ保全活動『湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～』

大津市では、水質浄化や生物を豊かに育むなど様々な機能を持つヨシ帯を保全すると共に、ヨシを通して琵琶湖と私達の生活の関わりを見直してもらおうと、平成2年度から『湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～』と名付けてヨシ保全事業に取り組んでいる。

その内容は、ヨシ帯のある真野地域から瀬田南地域にかけて7学区9地域が12月中旬から2月中旬にかけて各地域で実行委員会を結成し、ヨシ刈りを行っている（図4-2、4-3）。



図 4-2 大津市各学区のヨシ原の分布



図 4-3 大津市市民ヨシ刈りの様子

ヨシ原の規模が大きい地域では、地域のヨシ刈りと同時期に事業所や、外部の住民も参加できる市民ヨシ刈りを行っている。地域で刈り取ったヨシは、松明にして3月第2土曜日の「びわこ開き」の日に湖辺に並べ、琵琶湖の恵みに感謝する気持ちを込めて一斉に点火する「ヨシたいまつ点火」を実施している（図4-5）。



図 4-4 ヨシ松明祭りの様子



図 4-5 ヨシを使ったクラフト作りの様子

各地域では、点火にあわせて太鼓演奏や炊き出しを行うなど、地域のイベントとして定着しつつある。

このような地域住民によるヨシ保全活動をきっかけに、下阪本小学校等では毎年、六年生が自分達の手で「ヨシ紙卒業証書」を漉くなど、環境教育の材料として積極的にヨシに触れる機会を設けている（図 4-5）。

4-1-3 淡海環境保全財団（事業のヨシ刈り・ヨシ刈りボランティア）

淡海環境保全財団は、ヨシ群落保全条例に基づいて積極的な保全を進めるために、ヨシ群落の造成や維持管理（植栽および刈り取り・清掃）の実施、および琵琶湖の環境問題に積極的に取り組むことを目的として平成 5 年に滋賀県と市町村によって設立された財団である。

ヨシの保全事業の内容は以下の通りである。ⁱⁱⁱ

●造成事業（植栽）

ヨシ群落保全区域内において、ヨシ群落が弱まったところやまばらに生えている箇所を中心に、ヨシの植栽による再生・増殖を図っている。なお、植栽ヨシの活着を図るため、必要に応じて消波柵の設置を併せて行っている。

●維持管理事業（刈り取り・清掃）

ヨシの新芽の伸長促進を図るため刈り取りを行い、併せて刈り取り跡地におけるゴミ等（新芽の伸長阻害となる）の除去を行っている。

●ヨシの活用

ヨシの有効利用のため、維持管理事業で刈り取ったヨシを原料としてヨシ紙を制作し、名刺やはがきとして販売を行っている。また菊作りに適した「ヨシ腐葉土」も販売しており、ヨシの有効利用をはかっている。

なお、ヨシ保全事業の中にヨシの普及啓発事業があり、その一部としてヨシ育成ボランティア事業が位置付けられている。

淡海環境保全財団では、琵琶湖の生態系におけるヨシの重要性を認識してもらうために、平成 9 年度からヨシ刈りのみのボランティアではなく、ヨシ植栽、ヨシ群落の清掃・刈り取り・松明作りまで、一連の流れのあるボランティアを実施している（年 4 回）。平成 12 年から一部内容を変更し、ヨシ苗を育成、琵琶湖への植え付け、冬季の刈り取り清掃（湖北・湖南）を行っている。

平成 13 年度のヨシ育成ボランティアの日程は以下のとおりである。

実施日

- 第 1 回 ヨシ苗の育成：平成 13 年 7 月 20 日
- 第 2 回 琵琶湖への植栽：平成 13 年 10 月 24 日
- 第 3 回 刈り取り清掃：平成 13 年 12 月 23 日
- 第 4 回 刈り取り清掃：平成 14 年 1 月 14 日

普及啓発のプログラムとして、ヨシ育成ボランティアの他に「ヨシ観察会」や「ヨシ松明祭り・ヨシ笛コンサート」などヨシを観るイベント、「海外環境ツアー」など体験するイベントなど参加者に楽しみながらヨシに親しめる。

また、自然保護活動の推進を図るために、その指導者となる自然観察指導員などの養成も行っている。



図 4-6 ヨシ育成ボランティアの様子

4-1-4 生産業者と NPO のヨシ刈り

平成 4 年に、ヨシ群落保全条例のニュースを知った大阪のあるデザイナーグループが、「ヨシのことを勉強したい」といってヨシ刈りを手伝ってくれたことがきっかけでヨシ刈りの際にボランティアを募集するようになった。^{iv}

ヨシ刈りボランティアの内容は、刈り取りを行うのではなく、刈り取ったヨシをヨシやアシ、スゲなどの中からヨシだけを選び、仕分けをする作業である。商品として価値のあるヨシは中空のものである。（選別の仕方のヒアリング入ります）

参加者は、商品開発を目的としたデザイナーグループの他に、ヨシを材料にしたオブジェの制作をしている県内の芸術大学の学生も参加しており、試作品を作りたいと考えている人に竹田さんは、ヨシを無償提供している。

今年から、西ノ湖の周辺住民主体となって組織された「東近江水環境自治協議会」が参加してヨシ刈りと交流会を行った。

4-2 生業としての維持管理

ヨシ刈りは 3 月下旬頃まで“刈り子さん”によって手刈りで行われる（図 4-6）。刈り取りにより、水質浄化機能が果たされる。刈り取りが終わると“ヨシ地焼き”が実施されるが、これには、ヨシを休眠から覚醒させ、ヨシの害虫を



図 4-7 刈り子さんによるヨシ刈りの様子

防除し、できた灰が肥料となる、などの効果があるという。

ヨシに維持管理は「刈り取り」と「ヨシ地焼き」が全てであり、あとの維持管理はない。

しかし、これを怠るとヨシ群落は衰退する

という。

ヨシの維持管理に関する生産業者の意見は以下のとおりである（表 4-1）。

表 4-1 維持管理に関する生産業者の留意点

		刈り取り・火入れに関する留意点	効果／影響
刈り取り・火入れ時期の考慮が必要 (刈り取り:12月末～3月末、火入れ:3～4月上旬)	刈り取りの時期	12月末～3月末	刈り取りが早すぎると水分が抜けていないし(11月)、遅いと芽が出てしまう(4月)
	時期決定の際の考慮(水位)	ヨシは寒い風にあたらないと光沢でないで2月の中旬が適してる	3月にはいると水位が高くなるのでそれまでに刈っておきたい
	水際のヨシ刈る／刈らない	水ヨシもすべて刈り取る	残しておくともヨシの質悪くなる(刈れなくても焼く)
・水ヨシは刈り取り・特に火入れが必要(完全に燃やす)	火入れする／しない	火入れは絶対条件、毎年行う	・ 毎年行わないと新旧のヨシが混ざる ・ 病害虫の予防 ・ 灰が肥料になる
	火入れの日時	刈り取って次の日も良い 3月～4月上旬頃	3月末にしておかないと琵琶湖の水位がかなり上がる 4月になると芽が出る
	火入れの際に考慮すること(天)	風があまり強くない日 風下から焼いていく	風下から周囲に点々と燃やして回っていくとゆっくり完全に燃える
	水ヨシ焼く／焼かない	すべて焼く	・ 新芽ヨシは敏感で上にゴミがあると芽が出にくい ・ 水際のヨシも焼くことで肥料になる ・ 焼かないとヨシの質が悪い ・ 枯れヨシに害虫がわく

維持管理に関して必要なことは、以下の3点である。

- ・ 刈り取り、火入れを行うのは絶対条件ある
- ・ 刈り取り、火入れの時期の考慮が必要であること

(刈り取り時期は12月～3月末、火入れ時期は3月から4月上旬)

- ・ 水ヨシも全て火入れが必要

「刈り取りは、12月の末くらいから3月いっぱいくらいまでだいたいその期間に刈り取らないとあかんですわ。寒い時期じゃないと。逆に4月にはいると新しい芽が出てきますでね、3月末くらい遅くても4月のかかりやね。次の年に影響するということですね。それとね、10月とか11月とか早く刈るのは、やっぱり完全に水分が抜けないので、12月の末くらいがいいかなと思う。」(I氏)

「水際のヨシも肥料になるから、焼くというよりも、焼かんといかんね。焼けへんところは

翌年悪いでね。仮に水が深くても焼いたけど、水があって火がとおらなんだというところありますやん、そういうところはようないわ。

水際は燃えにくいさかいにあまりええヨシは生えませんわ。毎年刈ってても。」(I氏)

商品としてのヨシは、ヨシが商品価値が一番いい時期を選んで刈り取りを行っている。

また、群落の維持のために火入れは、絶対必要であるとヨシ生産業者の方の意見としてあがった。他にも火入れの際は、風向きを考え、利用するなど、自然条件を巧みに利用して火入れを行っている。他の生産業者の維持管理に関する意見は以下のとおりである。

刈り取りが終わった後、ヨシの刈束は、選別事業のため“ヨシ場”に移されるが、これを“ヨシ引き”という。これには今も昔ながらに田舟が利用されている所もあれば、農道整備に伴い、トラックで搬送しているところもある。

ヨシ場に運ばれた刈束は、円錐状の“丸立て”(または“チョッポイ”)にして、風にさらして乾燥させたあと、先ずヨシを長さによって仕分けする。これを“段抜き”(または“ヨシ抜き”)作業という。

10 尺の長さから 30 cm 刻みに分別していき、最後に 6 尺以下のものを“抜き下”としてまとめる。次に用途や応じて品質を分ける。

これは一本一本のヨシを手作業で選り分ける。この選別作業では、曲がり・虫食い・しみ(真鍮色の斑点)のあるヨシをはね、太さを揃え、さらに葉鞘に途切れのある“赤口ヨシ”、途切れがない“白口ヨシ”、葉鞘を付けたまま使用する“皮付きヨシ”に分けるが、これには相当な熟練を必要とする。

選別技術者は、刈り子さんも同様であるが、全員高齢化しており、後継者問題が年々深刻さを増している。

5 月中旬に丸立てのヨシをすべて倉庫内に納まる。その日を“葭仕舞”(よしじまい)という。



図 4-8 丸立て(チョッポイ)の様子



図 4-9 ヨシの選別の様子

近江八幡のヨシ生産業者の維持管理についての概要を述べたが、ヒアリング調査を行った5名の生産業者のヨシの維持管理に関する意見をまとめたものは以下になる（表4-2）。

表 4-2 維持管理に関する生産業者の意見（各個人）

		生産業者				
主催		F氏	G氏	H氏	I氏	J氏
場所	①ヨシ原の場所	西ノ湖	西ノ湖	琵琶湖周辺	西ノ湖	南津田のヨシ地
刈り取り	刈り取りの日時	12月（儀式）～3月下旬			毎年2/11ごろ（雪降るので、その前後の週末も）今年は2/11～16	12月末～3月末
	時期決定の際の考慮（日時）				ヨシは寒い風にあたらないと光沢でないので2月の中旬が適してる	刈り取りが早すぎると水分が抜けていないし（11月）、遅いと芽が出てしまう（4月）
	時期決定の際の考慮（水位）				3月にはいと水位が高くなるのでそれまでに刈っておきたい	
	刈り取りの際に考慮すること	下のほうから刈る 刈らずに放っておいたら群落は衰退する	下のほうから刈る	一番下から刈る	鎌は切り口が斜めになるので牧草刈りの改良した機械で刈っている（車で搬出する際のパンク防止のため）	根本でも上でもいいが、あまり上は足が引っかかる殻下のほうを刈っている（車の搬入の関係で機械の方が水平に刈れるからいい）
	水際のヨシ刈る／刈らない	水ヨシもすべて刈り取る	水ヨシもすべて刈り取る	きれいに刈る	昔は刈っていたが今は刈っていない（活用ない）	水ヨシもすべて刈り取る（水際のヨシを残すと虫がつく）
	刈り取ったヨシの利用方法	商品（すだれ、衝立、紙など）	商品（すだれ、衝立など）	商品（すだれ、衝立など、合板）	屋根材	商品（すだれ、合板など屋根葺き材）
	火入れする／しない	火入れは絶対条件	毎年行う（毎年行わないと新旧のヨシが混ざる）	毎年燃やす	毎年燃やす	火入れは毎年する（急るとヨシ群落はだめになる）
火入れ	火入れの日時	刈り取って次の日も良い4月上旬頃	3月中旬		3月下旬から4月のはじめ	刈り取った直後の4月に焼く（3月の中旬から後半がベスト）
	時期決定の際の考慮（日時）	その日になってみないとわからない（風などの関係）決めたら消防署に連絡する			3月末にしておかないと琵琶湖の水位がかなり上がる4月になると芽が出る	火入れは刈り取った次の日も良い（3月上旬でも良い）早い（3月）のはいいけど遅い（4月以降）のは芽が出るからよくない
	時期決定の際の考慮（水位）				昔はヨシの需要があったので刈っていたが今は刈らずに燃やしている（水ヨシは質が悪い）	川の水位が4月に上がる
	水ヨシ焼く／焼かない	すべて焼く	すべて焼く	すべて焼く	火入れはする	すべて焼く（水際のヨシ残すと品質悪い）
	水ヨシを焼く必要性		きれいに焼けても翌年悪いヨシになる場合もあるし、水がついてて焼けなくても良いヨシが出る時ある一よくわからない	（ヨシ）新芽ヨシは敏感で上にゴミがあると芽が出にくい	古いヨシ残っていると次に新しいヨシが生えてこない	水際のヨシも焼くことで肥料になる 焼かないとヨシの質が悪い 枯れヨシに害虫がわく
	火入れの際に考慮すること（天候）	風下からこんがり焼いていく	風下からじわじわ焼いていく	風のある日は風下から火をつける	風があまり強くない日 風下からじわじわと焼いていく	風下から周囲に点々と燃やしに回っていくとゆっくり完全に燃える
	火入れの際に考慮すること（その他）	風下から焼いていく	立ったままのヨシ燃えない一風上から（風の強い日危ない）	一番ヨシは価値低いから、二番ヨシ（細い）を生えさすために4月の中ごろ燃やす	4月から水位が上がるので3月末の土日に火入れをする	隣がまだ刈ってなかったら、ヨシ地を燃やさないように隣の境目から火をつける 周囲に何も無い時は風上からでも勢いがあって良いのでは

注）灰色部分は該当するコメントがないところ

4-3 事業としての維持管理

淡海環境保全財団は、平成7年から琵琶湖沿岸35ヶ所維持管理を行っている(表4-3)。(一箇所、記録が統一されているところあり)

維持管理を琵琶湖環境事業ヨシ協同組合(生産業者の組合)と造林公社に維持管理を委託している。

表 4-3 淡海環境保全財団の維持管理の状況

実施場所			その他の状況	水中刈り取りの実施	刈り取り面積(m ²)						H13実施方針
市町	箇所	工区			H7	H8	H9	H10	H11	H12	
草津市	新浜町(近江大橋北側)	1	雑草(マコモ、オギ等)顕著		23,600	23,600	23,300	12,400	17,500	0	雑草多く、衰退傾向のため休止
	〃(帰帆南橋南側)	2	雑草(マコモ)多い		20,900	20,900	20,900	18,000	0	9,000	植栽地付近刈り取り(H11植栽地)
	〃(帰帆南橋北側)	3	雑草(マコモ)多い		19,100	19,100	19,500	0	11,500	12,800	通常刈り取り
	矢橋町(帰帆大橋南側)	4	雑草(マコモ)多い		10,700	10,300	14,800	14,800	13,500	8,900	通常刈り取り
	〃(帰帆大橋北側)	5	雑草(マコモ)顕著		11,900	11,900	11,900	15,500	0	9,900	衰退傾向のため休止
	南山田町(帰帆北橋南側)	6	雑草(マコモ)顕著	○	13,100	11,000	10,500	12,500	0	0	衰退傾向のため休止
	北山田町(水公園植栽地)	6-1	公園植栽地		0	0	0	13,300	0	9,400	西側区間休止
	山田町(北山田漁港南側)	7-1	水ヨシは株立ち		4,400	5,100	6,700	4,100	3,500	0	刈り取り再開(H12植栽地)
	〃(湖岸緑地北側)	7-2	一部草地化		3,300	3,300	4,600	7,100	—	0	衰退傾向のため休止
	下笠町(旧草津川河口北側)	8	一部草地化		16,000	0	3,500	2,500	0	0	衰退傾向のため休止
	〃(葉山川河口北側)	9	ヤナギの下は雑草が顕著	○	5,500	5,500	0	3,200	0	0	衰退傾向のため休止
	下物町(鳥丸半島入口)	10	雑草(マコモ)顕著	○	12,400	12,400	12,400	13,100	4,000	4,000	東側部分休止
守山市	〃(ハス自生地周辺)	11	ハス進行、ヨシ衰退		12,600	4,400	0	0	0	0	ハス繁茂し、悪化傾向が強いため休止
	洲本町(法竜川水門右岸)	12	株立ち	○	10,000	4,300	4,600	0	4,500	0	衰退傾向のため休止
	木浜町(魚釣場南)	13	良いヨシ帯	○	22,400	22,400	22,400	14,000	14,000	13,900	通常刈り取り
	〃	13-1	雑草(マコモ)多い	○	22,400	22,400	22,400	14,000	14,000	8,900	通常刈り取り
近江八幡市	水保町(なぎさ公園南側)	14	密生している	○	22,900	22,900	22,900	22,400	22,500	22,500	通常刈り取り
	牧町(白鳥川河口周辺)	15	倒れたヨシが多い		25,500	8,000	8,000	0	0	0	水産課植栽地のため休止
安土町	下豊浦(西ノ湖北東岸)	16	堤防下には雑草が多いが、良いヨシ帯	○	9,600	15,400	17,300	15,900	10,000	10,400	通常刈り取り
能登川町	大中(大同川カヌーランド周辺)	17	道路沿い雑草目立つ	○	41,400	41,400	41,400	41,400	30,500	31,800	東側区間休止
彦根市	新海町(新海水泳場東側)	18	良いヨシ帯(南側は細いヨシ)		41,100	31,500	31,500	40,500	30,000	31,200	南側区間休止
湖北町	海老江(湖北プラント前)	19	沖側株立ち、ヤナギの下は雑草化		25,000	24,300	13,000	15,800	16,000	15,800	通常刈り取り
	延勝寺北(延勝寺船溜北側)	20	沖側株立ち		20,500	20,500	20,500	17,200	23,500	20,800	通常刈り取り
	〃(延勝寺船溜周辺)	21	沖側株立ち		14,400	16,000	23,800	23,800	0	15,600	北側部分休止
	今西(今西船溜北側)	22	沖側株立ち、護岸側に雑草多い		7,100	7,100	7,100	0	8,500	8,600	水鳥保護により休止
	尾上(尾上漁港南側)	23	沖側株立ち、護岸側に雑草多い	○	15,600	0	0	0	10,000	0	水鳥保護により休止
安曇川町	四津川(金丸橋東側)	24	細いヨシ、ヤナギの下は雑草多い		14,100	14,100	12,000	12,100	12,000	12,000	通常刈り取り
	〃(金丸橋西側)	25	草地化		26,000	27,800	12,000	0	0	0	衰退傾向のため休止
志賀町	今宿(新丹出川河口北側)	26	良いヨシ帯		11,000	6,000	6,000	7,500	7,500	8,100	通常刈り取り
	小野(JR小野駅前)	27	良いヨシ帯		34,000	23,000	17,200	17,300	17,500	17,000	通常刈り取り
大津市	雄琴(雄琴川河口北側)	28	草地化		9,500	0	0	0	11,000	10,900	通常刈り取り
	深清水(H9植栽地)	29	細いヨシ	○	0	0	0	0	11,000	0	休止
今津町	桂(H10植栽地)	30	繁茂しているが、欠損部あり	○	0	0	0	0	5,500	5,500	通常刈り取り
新旭町	針江	31	良いヨシ帯		0	0	0	0	0	0	新規実施

ヨシ群落保全条例で指定を受けた保護地域、保全地域を中心に維持管理を行っている。

当初は、「できるだけ刈れるところは刈る」という方針で、生産業者の琵琶湖環境事業ヨシ協同組合の方針で刈り取り作業を進めていたが、今は刈り取りをしているところが半分になっている(表4-3)。

積極的に刈っているところは、淡海環境保全財団が植栽をした地域が主である。

「絶対刈るところ、どうしても刈りたい所は、自分たちが植えたところ。平成9年までは失敗してたんですが、10年からほとんどが植栽が成功してるんで、10年から植えたところは今津町の桂と守山の木浜と（草津の）新浜と山田は絶対に刈ると。今年は深清水も刈るんで」（B氏）

ヨシ群落保全条例で指定を受けた保護地域について、現在の維持管理状況を伺った。

（1）草津市：下物町の地先

「下物は保護地域といってもハスがひどくて琵琶湖博物館の駐車場の前とつだえのところ、つだえはぜんぜん悪いし、博物館の前も今年刈ることは刈るんですが、あんまり良くない。赤野井は条例で言われている保護区域なんですけど、ここはものすごくハスがひどいから、もうぜんぜん刈らない。保護地域の下物については手は入れない。平成9年から刈ってないです。ただ博物館の駐車場の前は去年もボランティアやろうと思ってたくらいなんでこちらだけは毎年刈ってます。若干水ヨシになりかけてるから水位が高いと刈れないんですが。それ以外のところは下物はだめ。」（B氏）

表からもわかるように、草津の保護区域では、衰退傾向に平成9年から維持管理を行っていない。原因は、ハスに侵食されて、ヨシが衰退しているためといわれている。

ヨシは、砂地を好むが、ハスは泥化したところを好み、ハスが侵食することによって、ヘドロ化が進んだという。

「湖周道路の周りはどうしてもヨシ帯の幅が狭いんですよ。5mとか10mの帯状でしかないんですよ。」（B氏）

「手は入れたほうがいいんだけど、限られた予算のなかでやっていこうと思うと、群落として捉えた場合、5mくらいのところをとらるのか、やはり新海とか奥行きが20m、30mある方が群落やと思いますので。そういうところは刈るというよりむしろゴミ受けの柵とかをつけることによって砂とかが流れ出すのを防ぐとかそういう方向でやるほうが先の仕事でないかなと思ってます。刈ってるばかりでは進まないかなと思います。」（B氏）

幅の狭いヨシ地は、刈り取ると衰退するという生態学者の意見もあり、また実際に状態が悪いことから刈り取りを見直している。その背景には、予算の関係もあって群落の規模が大きい方を優先的に予算を回したいという意図がある。

（2）湖北町：大字海老江、大字延勝寺、大字今西および大字尾上の地先

「尾上の方は野鳥センターとの関係で、変な時期に刈れないというか、早く刈るといいんだけど12月までに刈らないと野鳥の関係が出てくるのでだめやし、この3月以降に刈るとかそういう話なんですけど、県から予算をもらっているんで、仕事は3月中に終わらせないといけない条件が付いてるのと、ヨシ条例の関係があるので12月1日からしか刈れない。両方に縛られてるんです。ちょうど水鳥のシーズンに刈らないといけないんですけどやめざるを得ない。去年は本当の水鳥センターの前だけ刈るのをやめたんですよ。11

年は逆に時期を遅くして刈ったんですよ。それは向こうの自然保護の人と話をして、その結果でどうしようかということなんです。」(B氏)

湖北町の尾上周辺は野鳥センターがあり、周辺のヨシ原は、“鳥の住処”としての機能が重要されている地区である。

鳥類の生態学者の留意点では、「できるだけ鳥類の影響の少ない時期を選ぶ営巣時期の春～夏、集団ねぐら形成時期の夏は避けてほしい」「また、冬に刈り取ることはバランスを損ねないが、冬鳥に対する悪影響は避けられない」ということから、冬鳥の飛来時期を考慮するため、相談をして刈り取り作業を行っている。

淡海環境保全財団では、県の予算と鳥類の飛来の考慮に挟まれた状態になっており、毎年維持管理ができる状態ではない。

「保護区域で刈る刈らないを繰り返してるものだから、海老江の状態は非常に悪いです。保護と言われている区域でもヨシの状態は悪いです。19工区はましだって、海老江の船だまり、延勝寺の20、21工区は周辺のヨシが生えているので結局草が生えているので、面としてのヨシ帯はつぶれているっていう形が多いのであまりよくない。去年一度刈って燃やしたつもりなんですけど、多年生の草、ヨシも多年生なんですけどつる性の草も多年生なんで、今年も同じようにだめになったんですよ。つる性のヨシが混ざって純正のヨシ帯ではなくなった。今年も一応刈る予定はしてるんです。ただ、つる性のヨシは陸域に生えてるヨシなので、水ヨシは水辺に近くなるとこの付近は（純正のヨシが）良くなってますね。湖周道路に近ければ、セイタカアワダチソウとかつる性のヨシが多いので、その部分は悪い。逆に人の手が届きにくい水ヨシは良くなっている。ここはあまりゴミがないので。」(B氏)

維持管理の仕方は、生態学者の意見を考慮して去年からできるだけ水ヨシを刈らないようにしているため水ヨシは刈っていない。

ここでは、手を加えた陸域のヨシ群落の優占が変化しており、一方で、加えなかった水域のヨシは良くなっているという結果がでている。

(3) 新旭町：大字針江の地先

「新旭の方は、新規の実施ってなってるんですよ。去年までは島村さんというヨシ組合の方が個人的に刈っておられたんですけど。新旭の自治会が河川口の申請を取られて刈り取りをするということで、許可をとられてされてたんですよ。面積が非常に大きくて5haくらいあるので、自分だけではできないということで、今年からうちが入るんです。町も刈られる。全部県からの予算なんですけど、町の場合は湖西の地域振興局環境課から町へ予算が流れて刈り取り予算の3分の2を補助する形で、3分の1は町が出してヨシを刈るところと、完全にボランティアで町がイベントをして刈りますというその3つに分かれてるんです。

財団の場合は100%県が出すし、町の場合は3分の1の町負担、完全にボランティアとい

う形にわけている。赤く塗ってあるところは保護区域であとは保全区域なんです。財団が刈るところが保護区域、町とボランティアが刈るところが保全区域というかたちでふりわけ今年から刈ろうと思ってます。」(B氏)

新旭の方では、財団が管理をしていた地域ではなく、組合の生産業者が維持管理をしてきた。今年から火減区域は新旭町で町単位、自治会単位で行う維持管理を行い、保護区域は財団で維持管理を分担しておこなう形になっている。

「保護区域の北側半分は去年まで手が入ってるので状態はいいんですけど、あとのところは去年のヨシがたったままなので状態が悪いんです。保全区域は柳とか生えてるので余計に悪いんです。」(B氏)

ここでは、手を入れていないところの状態が悪くなっている。

「平成7年8年は、刈り取りの予算が比較的多かったのですが、8000万、9000万くらいあったのですが、今年は5000万ほどしかないです。予算が多いと刈り取り面積も多いんですが、ないのでどんどん減ってきている。(刈り取りも面積も限られるので厳しい状況)」(B氏)

「ヨシは最近新聞にでてますので、難しくなってます。去年までは沖のほうのヨシも刈ってたんですが今年はそうじゃなくて、沖のほうにヨシの帯が残る形で手前だけ刈っている感じです。去年までできるだけヨシをたくさん刈ろうと考えてたんですが。」(B氏)

「ヨシ組合の方は、沖のほうにヨシが残るのは格好が悪いということで、株立ちは別として、沖の帯状に残ったヨシを気にされるんですよ。そういうところは刈りましょうということになって。行政の立場としては、水産課の人とかはヨシはできるだけ高い状態で残してくださいといわれるし、ヨシ組合の方は西ノ湖で刈った経験上から根っこのところで刈ったほうが翌年は良くなりますよといわれるんでその考え方の違いもあって、一応沖のほうはできるだけ残しましょうということになってるんですが、ヨシ組合さんはすべて刈ります、それが例え水ヨシであっても鎌を水につけて少々深くても刈りますといわれます。今年はそれをもっと厳しくして、残してもらおう方向で考えてます。」(B氏)

「それはまだ定説ではないのでなんとも言えないのですが、新聞などメディアに出るとそれが定説のようなものになるのでインパクトが強いので、学者の方がそういわれているので、やめるということも一つの考え方なんです。あと刈るほうが良いのか刈らないほうが良いのかもわからないんですよ。刈らなくても良くなっているところもあれば、刈って悪くなっているところもあるのでね、毎年手を入れても良くなないと、それに放っておいたらよくなった部分もあるので、今年は部分的に大きな面積で実験的に1000㎡単位で刈る区域と刈らない区域、あと火入れをする区域その3つに分けてそれを何年か続けないといけないかなって思ってるんです。BIRO センターとかで小さな実験施設でヨシを刈った

ほうが良い悪いの結果がでてますけど、それは大きな自然の中でされてないので、実際のヨシが育ってるほうでやったほうがいいので、今年はそれをやってみようということです。」(B氏)

地域によって、刈った方が良くなった場合と、逆に衰退傾向になる場合とでてきた。当初は、予算も多く、淡海環境保全財団では刈り取りが主な業務なので、刈り取り作業をヨシ組合中心に進めてきたが、予算の縮小と生態学者の意見が公表されることによって生態学者の意見にも考慮をした維持管理の仕方に方向が転換された。

しかし、生産業者の方は、自分達が行ってきた方法での維持管理をされているので、淡海環境保全財団では、どちらの意見にも対応を考えて、広い範囲で刈る部分と刈らない部分に分けて実験を行い、「刈るほうが良いのか、良くないのか」今後の事業の方向を模索している最中である。

4-4 ボランティア活動としての維持管理(大津市市民・地域ヨシ刈り、淡海環境保全財団、生産業者と NPO)

4-4-1 活動概要に関する比較

表 4 - 2 各主体の活動概要に関する比較

	主体	主催	参加団体	参加人数	参加人数（増加、横ばい、減少）	活動開始時期	刈り取りの日時	作業時間	場所	
									ヨシ原の場所	会場（単数・複数）
各主体	大津市 市民ヨシ刈り	大津市環境保全課	企業ボランティア（NTT、富士通、びわこ銀行、青年会議所、ロータリークラブ、郵便局、一般人など	約500人（一般参加は20人程度）	横ばい	平成3年	1月末の日曜	9：00～11：30、休憩あり、約2.5時間	雄琴6丁目地先（アクティバ横）	1ヶ所
	大津市 地域ヨシ刈り（イ）	イ浜ヨシ刈り実行委員会	自治会、PTA、子供会、小中学校、婦人会、社協、真野浜の業者、漁業組合（企業はいない）外部参加→7年前に真野北学区ができた（なじみのある人、初めての人受け入れてる）	100人～150人	子供の参加によって左右される	平成4年	1月第4土曜	9：30～11：30、休憩あり、約2時間	真野浜湖岸	1ヶ所
	大津市 地域ヨシ刈り（ロ）	北地域：ヨシ保全口大橋実行委員会 中地域：ヨシ保全口おとせの浜実行委員会 南地域：ヨシ保全天神川実行委員会	自治会（各10人）、子ども育成協議会、湖族まつり実行委員会、小中PTA（各6人）、老人クラブ（各3、4人）、学区民、社民（各5人）、中学生（各3、4人）、一般人（100人以上）	約500人	横ばい	平成4年	12月第2日曜	13：00～15：00、約2時間	御呂戸川河口、天神川河口周辺、おとせの浜周辺、永楽地先の浜周辺、今堅田等の浜周辺、琵琶湖大橋西湖岸	6ヶ所
	大津市 地域ヨシ刈り（ハ）	ハ学区自治連合会	自治会（5町）、小中学校、幼稚園、児童館（子育てサークル）、PTA	約50人	横ばい	平成3年	1月末の日曜	9：00～11：30、休憩あり、約2.5時間	雄琴港（琵琶湖グランドホテル前）	6ヶ所（点在）
	大津市 地域ヨシ刈り（二）	二学区ヨシまつり実行委員会	自治会連合会（110人）、老人クラブ（10人）、体育振興会（15人）、小学校・幼稚園PTA（30人）、社会福祉協議会（5人）、子供会育成指導者連絡協議会（5人）まちづくり（5人）	約200人	横ばい	平成3年	2月下旬（20日前後）	9：30～13：00	北大津湖岸緑地、七本柳公園、四ツ谷川河口付近、新唐崎水泳場、比叡辻周辺	8ヶ所（点在）
	大津市 地域ヨシ刈り（ホ）	ホ学区自治連合会 膳所火まつり	自治連合会、小中学校、高校、PTA、体育振興会、青少年、社会福祉協議会、商店街振興組合、婦人会	200～250人	横ばい	平成4年	2月第2日曜	10：00～12：00	膳所城跡公園周辺湖岸	1ヶ所
	大津市 地域ヨシ刈り（ヘ）	ヘ市民ヨシ火まつり実行委員会	自治連合会（各3人）、体育協会、コミュニティ推進委員会、防災推進会、婦人連合協議会、健康推進会、消防分団、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子供指導連、交通安全協会、観光協会	100人	横ばい	平成5年	2月第2土曜	10：00～12：00	蜷谷公園地先湖岸（松原から瀬田唐橋、瀬田唐橋から蜷谷公園）	2ヶ所（唐橋の南北）
	大津市 地域ヨシ刈り（ト）	ト学区ヨシフェスタ実行委員会	自治連合会、体育振興会、婦人会、日赤奉仕団、唐崎公園を守る会、交通安全協会、消防分団、一般（小中学生）→去年から自治会に参加していない住民や事業所の参加	200人	横ばい	平成5年	1月20日前後の日曜	9：30～12：00	唐橋公園前湖岸	2ヶ所
	淡海環境保全財団 事業	淡海環境保全財団	琵琶湖ヨシ環境事業協同組合 造林公社（委託）	約20人（ヨシ組合60%、造林公社40%）	—	平成7年	12/1～3/31	—	滋賀県内各地のヨシ群落（保護、保全区域中心に）	主に35ヶ所（記録あるところ）
	淡海環境保全財団 ボランティア	淡海環境保全財団	主に賛助会員、公募は少ない人数の割合：個人30%、団体70%	約150人	横ばい	平成9年	12月下旬（湖北） 1月中旬（湖南）	2時間ずつ2回にわかれて（10：00～12：00、13：00～15：00）	湖南：草津・守山 湖北：新旭	2ヶ所
	生産業者＋NPO	霞留（ヨシ屋根草き職人）竹田さん 東近江水環境自治協議会	やぶこぎ探検隊約10人、東近江水環境自治協議会約150人、成安造形大2～30人、ヨシデザイン会社3～5人、一般（外部）6.7人藤田カヌー約10人	今年300人（去年150人、一昨年120人）	増加（今年は東近江水環境自治協議会の参加）	平成4年：大阪のデザイナーがヨシを使った商品開発のため勉強会にきたのがきっかけ	毎年2/11ごろ（雪降るので、その前後の週末も）今年は2/11～16	約2時間	西ノ湖	1ヶ所

(1) 参加団体と参加人数について

大津市の市民ヨシ刈りは大津市が主催となり、その参加団体は、大津市内の企業ボランティアと外部から公募で参加している市民で構成されている。公募で参加する市民は毎年 20 人程度で、市民ヨシ刈りに参加する多くは、企業ボランティアである。会社の事業計画にヨシ刈りを盛り込んでおり、毎年参加人数は安定している。

大津市の各学区域で行われている地域ヨシ刈りについては、各学区の自治連合会が中心となって、学区内の多様な団体で実行委員会を形成している。実行委員会の構成は学区内で異なるが、多くは教育関係が占めており、火入れやゴミを燃やす際に火を使用する地域については防災のために地域の消防分団が参加している。小中学校の参加は、強制ではなく自主参加であるが、学校が参加の呼びかけをしているところもあり参加が多い。

人数については、実行委員会が各自治会に対して一定の参加人数を要請し集めるので、参加人数が安定している。また、事前に参加人数を把握できるようになっている。

ヨシ地が点在した学区では、「何人がどこのヨシ地を掃除するか」まで振り分けられている。

淡海環境保全財団のヨシ刈りボランティアは賛助会員へのダイレクトメールより参加をしている人が多く、公募の参加は少ない。参加の割合は、団体での参加が多く、全体の 7 割を占める。個人の参加は 3 割程度だが、毎年来ている人も多い。

ヨシ生産業者と NPO のヨシ刈りは、今年から東近江水環境自治協議会が参加団体に加わり、ボランティアの内容が変更した。ヨシ生産業者が刈ったヨシを簡単な選別をする作業からヨシ刈りをするようになったため、大きな団体の加入で、参加人数は去年の 150 人から 300 人と倍増した。

従来の方で行ってきた頃からの参加人数の変化は、里山作りをしている NPO など外部からの問い合わせ・参加もあり、毎年 20 人程度の割合で増えている。(平成 11 年 120 人→平成 12 年 150 人→平成 13 年 300 人) 今年から参加をした東近江水環境自治協議会の会員は現在約 200 人で、発足当時から人数の変化がほとんどないことから、今後の人数は今年ほど大幅に増加することはないように思われる。

(1) をまとめると、市民ヨシ刈りは外部からの参加があるが、企業ボランティアの参加人数が大部分を占めるので、全体の人数も毎年一定である。

地域のヨシ刈りは各自治会で参加人数が決められているので、毎年一定である。地区によっては、小中学生の参加に人数が左右されることもある。

淡海環境保全財団のヨシ刈りは、参加団体のうち団体での参加の割合が高く、参加人数は団体の参加の有無によって左右されると思われる。

ヨシ生産業者のヨシ刈りは、毎年 20 人程度の増加がある。今年は東近江水環境自治協議会の参加で、全体の参加人数は 2 倍に増えた。

(2) 活動開始時期について

大津市市民ヨシ刈りと地域のヨシ刈りは、大津市が地域に対して参加の要請を行い、平成3年に市民ヨシ刈りと同時に、ハ学区、二学区の2学区の地域ヨシ刈りも行われるようになった。これは、平成4年7月にヨシ群落保全条例の制定以前に大津市独自でヨシ刈りを行っている。翌年、平成4年にイ学区、ロ学区、ホ学区が加わり、平成5年にはヘ学区、ト学区が加入して、現在その7学区で活動している。

淡海環境保全財団は、平成9年からヨシ刈りのみのボランティアではなく、ヨシ植栽、ヨシ群落の清掃、刈り取り、松明作りまで、一連の流れのあるボランティアを実施している（年4回）。平成12年から一部内容を変更し、ヨシ苗を育成、ヨシ植栽、刈り取り（湖北・湖南）を行っている。

ヨシ生産業者とNPOは、平成4年に大阪のデザイナーがヨシを使った商品開発のために勉強会にきたのがきっかけでヨシ選別のボランティアをするようになった。

(2)をまとめると、ヨシ刈りの活動開始時期は、平成4年のヨシ群落保全条例制定前後に集中している。大津市の場合は、条例以前から独自でヨシ保全への取り組みをし始めていることから、活動開始は最も早い。条例制定前後に実施学区が増えていることから、条例制定によってヨシ刈り実施の促進になったのではないと思われる。

4-4-2 大津市地域のヨシ刈りの活動概要に関する比較

表4-3 大津市地域ヨシ刈りの活動概要の比較

	学区	特徴	人口 (人)	自治会 数	参加人数 (人)	ヨシ原の規模 (㎡)	作業時間	ヨシ松明に利用 している量	刈り取り分でヨシ 松明作れるか／否 か	ヨシ刈りに参加 してもらう工夫	松明祭りに参加し てもらう工夫	ヨシ刈り以外の行事 ある／ない
大津市 地域ヨシ刈り各主体	イ	農村集 落・新興 住宅地	6537	16	100人～ 150人	30185㎡	13：00～ 15：00、約 2時間	240束以上 (80本)	ほぼまかなえる が、ヨシの高さが 低いので、雄琴の ヨシを3束のうち1 束は入れている	炊き出し（おに ぎり・豚汁）	炊き出し（湖旅 汁、くず湯） 小学生に点火して もらう（事前に決 めて）	7月の琵琶湖岸一 斉清掃（伊浜自治会 200世帯参加）、さ んやれ祭り
	ロ	漁師まち	15643	17	約500人	46202㎡	9：00～ 11：30、休 憩あり、約 2.5時間	150束（50 本）	まかなえる	・堅田中学：ボ ランティアカー ド配布（生徒の 自主的参加に対 する評価） ・参加賞の配布 （ジュース・ゴ ム手袋）	小学生に点火して もらう（事前に決 めて）	7月の湖岸一斉清 掃、春と秋クリー ン作戦（春：小学生と 自治会主体、秋：中 学生と自治会主体） 参加人数はヨシ刈り の倍以上、湖旅祭り （夏祭り）
	ハ	農村集落・ 温泉町	4552	5	約50人	68413㎡ 刈 り取り約 40000㎡	9：30～ 11：30、休 憩あり、約 2時間	大松明1本、 南120束（40 本）、北90束 （30本）	まかなえる 他の地域にもヨシ を提供している	環境に配慮した 文房具を参加賞 として配布、炊 き出し（企業 ボランティア）	参加賞の中に祭り の案内 観光客に点火して もらう	春祭り（3つの神 社）
	二	旧城下 町・旧港 町	8434	35	約200人	25494㎡	9：30～ 13：00	150束（50 本）	雄琴のヨシを少し 入れる	炊き出し（豚 汁、弁当）	小学生に点火して もらう（事前に決 めて）	7月の琵琶湖岸一 斉清掃、10月末日吉 小学校湖岸の掃除、 日吉祭り、おこぼ祭 り
	ホ	旧城下町	16755	59	200～250 人	901㎡	10：00～ 12：00	300束（100 本）	数えるほどしか松 明が作れないので （約10本分）ほと んど雄琴のヨシに 頼っている	ジュースの配布	自治会がお守役で ボーイスカウトの 子に点火してもら う イベント：稚魚放 流、オカリナ・石 鹿太鼓演奏 炊き出し1500食分 （陪膳[おもて なし、甘酒]）	春：桜祭り、夏：学 区の運動会、7月湖 岸一斉清掃、ソフト ボール大会など学区 内でイベントを積極 的にやっている
	ヘ	コミュニ ティモデ ル区	16900	34	100人	247㎡	10：00～ 12：00	180束（45 本）	ヨシが背が低く、 松明に使えないの で全部雄琴のヨシ に依存している	ジュースの配布	ハンドベル演奏、 餅つき体験、炊き 出し（ぜんざい、 うどん）	コミュニティという 団体が主催で夏祭 り、ふれあいマラソ ン、文化祭など学区 内の行事多い
	ト	漁師まち	15096	3	200人	4294㎡	9：30～ 12：00	例年60本→今 年80本（多す ぎた）来年は 70本	数えるほどしか松 明が作れないので （約10本分）ほと んど雄琴のヨシに 頼っている	炊き出し（かや くご飯、粕汁）	自治会や老人会な ど各団体に松明点 火の割り当てがあ る 太鼓演奏ある 炊き出し（甘酒、 酒）	ト川一斉清掃（ボラ ンティア団体が主催）

(1) 作業時間とヨシ原の面積と参加人数について

作業時間は、どの学区もほぼ2時間程度であるが、ヨシ原の面積が各学区によってばらつきがある。

北部地域（イ学区、ロ学区、ハ学区、二学区をさす）は、ヨシ地が大きい。しかし、ヨシ刈りの参加人数は、ヨシ地の大きさには比例せずに学区民の人口に比例している。

ハ学区はヨシ地の大きさは、群を抜いて大きい、7学区の中で最も人口が少なく、作業負担が大きいと考えられる。その分、ヨシ地は違うが市民ヨシ刈りもハ学区で行っている。（ハ学区民参加50人、企業ボランティア約500人）

南部地域（ホ学区、ヘ学区、ト学区）は、ヨシ地が北部と比べてほとんどないが、ヨシ刈りの参加人数は多い。学区の人数が多いこともあり、ヨシ地が小さくても湖岸清掃メインで行っている。

(2) 刈り取り量と松明の量について

北部地域では、祭りに使う松明がほぼ作れる程度のヨシがある。一部、水ヨシ区域が多い所では、背の低いヨシしか取れないため、ハ学区のヨシを補足している。

南部地域では、数えるほどの松明しかできない程ヨシ地が小さい。学区で取れたヨシはわずかで、ハ学区で刈り取ったヨシで松明を作っている。

ハ学区では、ほぼ全学区にヨシを提供しているが、地域ヨシ刈りと市民ヨシ刈りで刈った量は、ハ学区しかまかなえないので、ヨシ刈りボランティアの作業が行われる前に、業者があらかじめ他地域の松明の不足分を刈っている。

祭りで使われる松明は北部、南部共に50本から70本程度であるが、ホ学区においては、100本の松明を使用する（図）。（ロ学区は、1つの実行委員会あたりの松明量。3つあるので学区全体では150本になる。）



図 4-10 刈ったヨシを松明にして立てている様子

(3) ヨシ刈り・ヨシ松明祭りの参加の工夫について

北部地域のヨシ刈りの後は、炊き出しや、参加賞が配られている。ヨシ刈りの範囲も広く、寒い時期に行っているため、体を温めるための配慮がされている。ロ学区においては、中学生の自主的な参加を募るため、ヨシ刈り会場で中学校の教諭がボランティアカードを配布していた（図 4-11, 4-12）。ヨシ松明祭りについては、イベント性はあまりない。地元の小学生に参加してもらおうなど、学区に限定された祭りである

と考えられる。

ボランティア I・カード	
ヨシ刈り	H13.12.9.
年 組・氏名	
部	

図 4-11 ボランティアカード
(ロ学区)



図 4-12 参加賞をもらう中学生

南部地域のヨシ刈りの後は、北部地域と余り変わらず炊き出しや、参加賞が配られている。一方ヨシ松明祭りについては、太鼓、オカリナ、ハンドベルなど楽器演奏が行われるなど、松明点火の際に盛り上げる工夫がされている。南部地域は人口が多い分、地域以外に一般客も参加対象に入れたイベントを行っていると考えられる。

4-4-3 ゲストに対する考慮に関する比較

表 4-4 ゲストに対する考慮に関する比較

	要素	ヨシ刈り参加呼びかけ方法	雨天中止の際の連絡方法	「ヨシの効用」伝達の有無	「ヨシの効用」説明の有無（ヨシ刈り当日）	作業の際の注意事項の説明	けがの対策
各主体	大津市 市民ヨシ刈り	企業に対しては事前に案内送っている（郵送、FAX）一般に対しては広報おおつで募集（1月1日号）プレスによって新聞で広報	NTTで聞けるように手配、企業に連絡網、一般の人にも電話（みんなに伝える体制ある）	「大津市の環境」、大津市HP以前はヨシの刈り方・松明の作り方の紙を配布してた	ヨシ刈りを始める際に注意事項と一緒に口頭で言っている	鎌の扱いの注意、水際は危ないので近寄らない（ヨシの刈り方、松明の作り方については以前は紙を配布して説明していた）	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（イ）	市民センターだより	当日7:30の時点で中止を連絡網にて	当初、水質浄化に関するビデオ見た、講師も1,2回きた覚えある	ヨシ刈りを始めるの際に効用について書いたパネルで簡単な説明行っている	鎌の扱いの注意、けがの注意	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ロ）	公民館が出している広報に載せる、回覧版	中止の際は連絡網でまわす 中止は今までにない	実行委員の会議資料の中に宣言として盛り込まれている（湖水の浄化、湖辺に趣を添えて人々の心を和ませる働き、魚や水鳥のすみか）	ヨシ刈りの際は注意事項（安全面）の説明のみ	ヨシの切り株と鎌でけがをしないように中止を呼びかける	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ハ）	回覧版をまわす	雨天中止の場合、6:30に連絡網でまわす	当初の自治会長に昔はヨシを肥料に使っていた事を聞いた	ヨシ刈りを始める際に注意事項と一緒に口頭で言っている（説明は大津市にまかせている）	鎌の扱いの注意、水際は危ないので近寄らない	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（二）	掲示板にチラシを貼って呼びかけ	連絡網でまわす	特になし	ヨシ刈りを始める前に自己流でヨシの水質浄化について説明している	ヨシの切り株と鎌でけがをしないよう呼びかける	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ホ）	役員は事前の会議で、年内に日時を御把握している 一般：掲示板にチラシを貼って呼びかけ	連絡網でまわす	地域の老人からヨシ保全の必要性を聞いた	今は効用を言うより、寒いのでとりあえず作業を早く済ませてほしいため言っていない	刈りあととのけがの注意（長靴までつく恐れ）	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ヘ）	自治会毎にチラシを配ってもらう、公民館だより、掲示板にポスター貼る	8時30分に判定し、自治会長、団体長に連絡→連絡網	写真コンクール募集要項にヨシの効用として水質浄化作用、鳥や魚の休息や産卵場所であることが書かれている	特になし、言うほど刈るところがない	川にはまらないで下さい、無理しない程度に刈って下さい	保険に入っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ト）	公民館だよりでよびかけ、学校に紙を配布	連絡網でまわす	公民館だよりでヨシの効用として水質浄化、魚、鳥の生態系の保護の役割が書かれている	特になし	護岸が芝なので滑りやすいのではまらないように、鎌の扱いに気をつけてください	保険に入っている
	淡海環境保全財団ボランティア	会員約2000人にDM	県外からの参加もあり、連絡が取れない人もいる。来た人で作業を決定する場合ある	HP、ヨシ観察会などの環境学習プログラムあり	休憩の際にしている、聞いている人のために参加の記念品の中に紙を入れてある	水際には近づかないで下さい	保険に入っている
	生産業者+NPO	新聞（公募）、手紙の郵送、テレビ、HP、口コミ	雪降りて中止の場合あるので、事前に問い合わせをもらう	HP（個人）	協議会のメンバーに生産業者が何人かいる（勉強会の講師）	鎌の扱いの注意、けがの注意	保険に入っている

(1) 参加の呼びかけについて

大津市市民ヨシ刈りでは、事業計画に盛り込んでいるなど参加の決まっている企業に対しては、事前に郵送やFAXで参加のお知らせを送っている。

大津市民に対しては、大津市の広報『広報おおつ』の1月1日号で参加の案内をしらせている。また、外部に対しての参加の募集は、市役所内のプレスによって新聞で広報を行ってもらう。

大津市地域のヨシ刈りについては、主に学区内で人数も要請をしているため、参加の呼

びかけは連絡網が中心となっている。他の一般市民に対しての参加募集は各学区にセンターだより、掲示板、公民館だより等知らせているところもあれば役員中心の学区では、ほとんど呼びかけを行っていない。

淡海環境保全財団では、主に賛助会員約 2000 人に対してダイレクトメールを送り、「**ヨシ刈りの場合は、ある程度（身近な人を）寄せといて狙い撃ちという方法で**」（A 氏）参加の呼びかけを行う。その他、新聞や HP などに参加の募集を行っている。

生産業者と NPO では、主に毎年参加している人に、ハガキにてボランティアのお知らせを送っている。ボランティア募集期間が 2 月 11 日から 1 週間程度あるので、事前（3 日前）に参加希望日を知らせてもらうようにしている。公募は新聞等でおこなっている。

(2) 雨天中止の際の連絡方法について

大津市市民ヨシ刈りは、企業ボランティアが主なので、団体の連絡網によって雨天の際の連絡は届くようになっている。企業ボランティアとして参加している NTT に協力してもらい、雨天の連絡を特定の電話番号にかけて知らせるサービスも行っている。一般参加者に対しては市役所が雨天の連絡を直接行うなど配慮している。

大津の地域ヨシ刈りでは、各学区ともに自治連合会が主催となっているので、当日の朝の時点で判断をしたらすぐに自治会の連絡網によってすべての参加者に連絡が行き届くようになっている。

淡海環境保全財団の対応は、県外からの参加者もあるので、雨天の中止の連絡が取れない人もいる。そこで、中止でも遠方から来た人のために、刈り取り作業を行う場合がある。

生産業者と NPO の対応は、「**2 月は雪が降るので、ボランティア期間、のべでやったことはない**」（J 氏）ほど、ボランティア活動可能な日は天候により左右される。案内のハガキには、あらかじめ確認をしてほしいと書いている。初日に雪が降った年は、その後の参加予約がなかなかないことから人数もずいぶん影響を受けたという。

(3) ヨシの効用の伝達について

大津市では、大津市の環境報告書「大津市の環境」や HP によってヨシ保全の効用を知らせる手段がある。ヨシ刈りの際も、注意事項と一緒に口頭で説明している。

地域では、効用を知らせる方法として市のように冊子があるわけではなく、お知らせの際に書き添える程度である。

ヨシ刈り当日に学区によって効用を知らせているところと知らせていないところがある。特にヨシ原小さな学区では、刈る面積がそれほどないため知らせていないところが多い。

財団では、ヨシ刈りのボランティアの他に環境学習プログラムがあるため、ヨシの効用を伝える機会は、他の体験プログラムでも可能である。（例えばヨシ観察会など）ヨシ育成ボランティアの当日も休憩の時間を利用して、ヨシの効用等伝える勉強会がある。

生産業者と NPO のヨシ刈りについては、何人かの生産業者が NPO のメンバーなので、ヨシ刈りとヨシ笛コンサートなどヨシに関するイベントを同じ期間に開催する。(2/11～16のうち1日はイベント日を設ける) そのイベントの際にヨシの効用や歴史など、ヨシについて考える機会を設けている。またヨシ刈りが終わった際に交流会を開き、その際にヨシに関する意見交換をする機会が設けられている。

(4) 作業の際の注意事項について

大津市では、鎌の取り扱いに対する注意と、水際には危ないので近寄らないようにという指示を出している。水ヨシに近づけない別の理由として、生態学者の「水ヨシを刈らないように」という意見に考慮しているからでもある。

地域のヨシ刈りでは、すべての地区において、鎌の取り扱い、ヨシの切り株に対する注意が言われている。また、けがの対策として保険に加入しているなど、安全面の配慮に重点がおかれている。

淡海環境保全財団のヨシ刈りでは、安全面において注意している点として、川沿いなど水際には近づかないようにしている。

生産業者と NPO のヨシ刈りについても市民・地域ヨシ刈りと同様に、鎌の取り扱いへの注意をしている。

4-4-4 刈り取りに関する比較

表 4-5 刈り取りに関する比較

		刈り取りに関する項目				
	主体	刈り取りの日時	時期決定の際の考慮 (日時)	時期決定の際の考慮 (水位)	刈り取りの際に考慮すること	水際のヨシ刈る／刈らない
ヨシ刈りボランティア	大津市 市民ヨシ刈り	1月末の日曜	特になし	陸ヨシを刈るので問題なし	陸側から刈る（水ヨシまで刈るのは大変）②水ヨシ部分が多くて刈り取り作業の難しいところの対策が課題	刈っていない
	大津市 地域ヨシ刈り（イ）	1月第4土曜くらい	子供が休みの日、2月は雪でヨシ倒れる恐れ	水位があまりにも高いとき中止した（順延はなく、あとで自治会の役員のみで刈った）	長靴でいける範囲（ひざの高さ）までいく	水位が高いときは、舟を出して刈った（1,2回）
	大津市 地域ヨシ刈り（ロ）	12月第2日曜	当初は1月末から2月末の間→雪でヨシ倒れるから12月	沖刈りをしたことが1回ある	湖辺のヨシは刈り取れる範囲で刈り取る	刈っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ハ）	1月末の日曜（市民ヨシ刈りと同時開催）	特になし	陸ヨシを刈るので問題なし	注意事項は大津市が説明しているので、まかせている（ほぼ陸ヨシを刈る）	長靴で入れる程度まで
	大津市 地域ヨシ刈り（二）	2月下旬（20日前後）	特になし	水位が変わるので、陸ヨシを刈っている	稲刈りのように低く刈る平面的に刈る（怪我のないように）	刈っていない
	大津市 地域ヨシ刈り（ホ）	2月第2日曜	特になし	舟を出したこともあった	特にない（安全面に対して考慮している）	松明にする長さを確保するために水中で刈れる範囲で刈っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ヘ）	2月第2土曜	特になし	護岸整備されているので舟を1艘出してほとんど刈っている	特にない、届かないところは無理に刈らない	刈っている
	大津市 地域ヨシ刈り（ト）	1月20日前後の日曜	特になし	護岸整備されているので舟を3,4艘出して水ヨシを刈っている	水から上を刈っているが、新聞などの報道で迷っている	水面より上で刈っている
	淡海環境保全財団 事業	12/1～3/31	特になし	できるだけ陸ヨシを刈っている	ヨシ組合の方は水ヨシもきれいに刈り取るのに対して、財団としては水ヨシはできるだけ残してほしい	刈ってほしくないが刈っているところある
	淡海環境保全財団 ボランティア	12月下旬（湖北） 1月中旬（湖南）	湖北は雪の降らないうちにしたい、湖南は湖北と同時期はまだヨシが青い	陸ヨシのみ刈ってもらっている	水ヨシは刈らない	刈っていない
	生産業者＋NPO	毎年2/11ごろ（雪降るので、その前後の週末）今年は2/11～16	ヨシは寒い風にあたらないと光沢でないので2月の中旬が適している	3月にはいると水位が高くなるのでそれまでに刈っておきたい	今年のボランティアは鎌でしているが、普段は鎌は切り口が斜めになるので牧草刈りの改良した機械で平面的に刈っている	昔はヨシの需要があったので刈っていたが今は刈らずに燃やしている（水ヨシは質が悪い）

(1) 日時と日時決定の際の考慮について

大津市、および地域のヨシ刈りの日程は、ほぼ1月の下旬から2月の下旬にかけて集中している。日時は、各学区で決められおり、ほとんどの学区ではヨシ刈り当初から日時の変更はない。学区の考慮としてロ学区では、当初は2月の後半にヨシ刈りを行っていたが、雪の影響でヨシが倒れて刈りにくいことから昨年より12月の第2日曜に変更になった。「少し早めですが、ヨシ条例では、12月から刈り取りが可能だということで、雪が降らないし、あまり寒くない時期なので。12月でも年末のほうになると忙しいので…」（ロ学区）

淡海環境保全財団のヨシ刈りは、湖北地域と湖南地域の2ヶ所で行われる。湖北が12

月の下旬に行われ、湖南は1月の中旬に行われる理由として湖北は1月にはいると雪が降りやすいので、なるべく雪でヨシが倒れないうちに刈っておかないと作業が大変だからという理由がある。湖南のヨシについては、12月では、まだヨシが若干青いことから湖北よりも遅くに行くようにしている。

生産業者と NPO のヨシ刈りの時期について、J 氏は「**2 月の中旬に刈り取るのが、ヨシが寒さにさらされて光沢の出る一番いい時期なんですよ**」とおっしゃるように、ヨシの商品価値が一番高い時期を選んでいることがわかる。

(2) 水位の高い時の対応、水ヨシの扱いについて

大津市では、水位が高い、低いに関係なく、陸ヨシのみを刈っているので、特に問題にはしていない。水位が高いときは、刈り取る範囲が多少狭まるが、「できる範囲で」という指示をしている。

地域のヨシ刈りにおいては、学区ごとのヨシのタイプが違うのでそれぞれの対応がある。イ学区においては、水ヨシの多いヨシ原なので、水位の高さによって、刈り取り作業が影響を受ける。水位があまりに高い年は、自治会の役員のみで、船を出して刈ったという。また、他にもロ学区、二学区、へ学区、ト学区も舟を出して刈っている。ホ学区、へ学区、ト学区はヨシ原が非常に小さく、ヨシ原がすべて水に浸かったヨシなので、水位に関係なく水ヨシを刈っている。

ハ学区では、市民ヨシ刈りと会場は別だが、最初の指示は市民ヨシ刈りと同じなので、できる範囲で刈ることにしている。二学区も同様である。



淡海環境保全財団では、事業で水ヨシを刈っていたが、去年から水ヨシをできるだけ刈らない方針に転向した。ボランティアに関しても「できる範囲で」ということで、陸ヨシ部分を刈ってもらい、“刈り散らかし”状態になったヨシ原を淡海環境保全財団によって刈りなおしている。

生産業者と NPO では、西ノ湖は陸ヨシなので、大津の沿岸の水ヨシほど直接影響はない

が、3月になると水位が上がるので、それまでに刈るようにしている。

4-5 火入れに関する比較

表 4-6 火入れに関する比較

	主体	火入れに関する項目					火入れの際に考慮すること
		火入れする／しない	火入れの日時	時期決定の際の考慮 (日時)	時期決定の際の考慮 (天候)	時期決定の際の考慮 (水位)	
ヨシ刈りボランティア	大津市 市民ヨシ刈り	火入れしていた約20000㎡(現在していない)					家が多いので苦情が多い、防災面考慮→今は火入れを行っていない
	大津市 地域ヨシ刈り(イ)	火入れはしていない(消防署の関係) 焚き火しながら作業している					
	大津市 地域ヨシ刈り(ロ)	ヨシの火入れではなく、余ったヨシを一部に集めて燃やしている(消防署待機)					余ったヨシを燃やす際にはできるだけ1ヶ所で燃やす
	大津市 地域ヨシ刈り(ハ)	雄琴港のほうで火入れを行っている(灯油をまいて)	ヨシ刈り当日	その日にやってしまう	煙と灰がでるので、風のあまり強くない日	水位が低い年(去年は水位が高かった過去2回位している)	過去2、3回はしているが、ホテルの関係で去年はしていない
	大津市 地域ヨシ刈り(ニ)	火入れはしていない					
	大津市 地域ヨシ刈り(ホ)	火入れはしていない					
	大津市 地域ヨシ刈り(ヘ)	火入れはしていないが、刈ったヨシを焼却している					
	大津市 地域ヨシ刈り(ト)	火入れはしていない					
	淡海環境保全財団 事業	火入れは毎年する(ヨシは敏感な植物なので、上にゴミがあると芽が出にくい) →ヨシ組合	刈り取ってから約1週間後	刈り取ってから約1週間乾燥させる	風があまり強くない日	水ヨシは火入れはしない	風下からこんがり焼いていく、带状にゆっくり
	淡海環境保全財団 ボランティア	火入れは毎年する	刈り取ってから約1週間後	刈り取ってから約1週間乾燥させる	風があまり強くない日	水ヨシは火入れはしない	風下からこんがり焼いていく
	生産業者+NPO	火入れは毎年する	3月下旬頃	特になし	風があまり強くない日	3月末にしておかないと琵琶湖の水位がかなり上がる 4月になると芽が出る	風下からじわじわと焼いていく

(1) 火入れの有無について

大津市、大津の地域では、ハ学区以外(会場：ハ港)火入れを行っていない。大津市は、過去2回ほどハ学区(会場：アクティバ前)のヨシ原の火入れを行っていたが、住宅地が近いことと、近くに老人ホームが新たに建設されたことから、煙と灰の苦情を言われる前に中止をせざるをえなかった。

ハ港で行われているハ学区の火入れは、過去2、3回行われているが、水位が高いとき、また近隣にホテルがあるので、ホテルに対して考慮をするとなかなか実施するのが困難な状況である。

淡海環境保全財団では、事業、ボランティア共に火入れを行う。刈り取り後水分があると焼けないので、1週間くらいしてから燃やすことが多いという。ヨシ刈りボランティア

の際は、ヨシ原の半分を1週間前に刈っておいて、ボランティア当日に参加者に火入れをしてもらう。その際には「風下から火をつけること」を注意している。

NPO のヨシ刈りについても火入れを行うが、ボランティアのときではなく、ヨシが全て刈り取ってから行う。4 月にはいるとヨシの新芽が出る時期と重なり、また水位の上昇によりヨシが焼けないこともあるので、3 月下旬頃行う。

(2) 火入れに対する考慮について

財団、生産業者共に風のあまり強くない日で、風下からじわじわと焼いていかないと、完全には焼けないといわれている。

「風向きの反対側、風下から火をつけますわ。風上から火をつけるとやばいんですよ。火がバーときますやろ、燃やす際には、風下のほうの周囲に点々と燃やしに回っていくと順番に燃えていくんやわ。そのほう（風下から）がゆっくり完璧に焼けるんやわ。こっちも（風上）も悪くないんやけどね、勢いがあるから。ちょっとは良く走りすぎるときがあるんやわ。だから、まず風下から火をつけることが多いね。何にもないときは風上からつけて方が早いんやけどね。」(I 氏)

火入れは、風向き、風の強さが影響するため「その日になってみないとわからない」(A 氏) 作業である。火入れが決まった日には、念のため消防へ連絡をいれ、安全対策をとっている。

4-6 生態学者と生産業者の意見から見たボランティアの維持管理の比較

4-6-1 生態学者の意見と生産業者の意見

生態学者と生産業者が、正反対の意見として取り上げられているのは、「水ヨシ」の刈り取りの賛否である。

特に魚類を専門としている生態学者が水ヨシの刈り取りについて反対している。

その意見の根拠に、「ヨシ原が魚の住处と産卵場所としての機能があるので、水ヨシを刈ってしまったらヨシの刈り取り口に水が入り、成長が遅れ、産卵時期に水ヨシが伸びていないと産卵場所として機能しなくなる。その結果、稚魚の数に影響が出る」^vというものである。

その意見に対して、生産業者の意見は以下のとおりである。

「一年刈らなんだ地区は、ヨシが枯れて腐ってしもうて全部倒れてしまうわけやねん、これがヘドロの原因になるわけや。刈らんかったらだめとわしらはそう思う。学者はみんなそう（水ヨシを刈るな）いわはんのやけど、現場知らん人は。実際、フナとか採らはる漁師さんは現場で会うと『ヨシ刈ってくれなあかんのや』って言われるわけや。」

「ちょうど魚が産卵しよる時に3月末頃に水面にヨシあがってきた。昔はヨシ運んでる時に魚がきよんねん。よく見るとな、古いヨシよりも青い新芽の方がたくさん子をひつつけてきよるね。ほんで見てるだけやけど、業者から言わすと『新芽の方がぎょうさんついと

るな』って話をしてたんや。」

「今の圃場整備が、全部川をつぶしたんが、最大の原因やと思うわ。魚の産卵場所がなくなっただけ」(G氏)

生産業者は、実際にヨシに携わっている経験から、刈ることによって魚の産卵場所として良いこと、刈らないとかえって腐ってしまいヘドロ化することを指摘している。むしろ水ヨシを刈る・刈らないよりも圃場整備によって自然の護岸を破壊したことの方が根本的な原因だと指摘している。

現在事業として維持管理している淡海環境保全財団では、「産卵場所がなくなって、枯れヨシ等に生んでいるパターンもあるので、だからヨシを残した方がいいという意見がある。」

「(水ヨシを刈ってはいけないといわれる) 一つの理由として、琵琶湖の水位変動がなくなったため、群落が水ヨシと陸ヨシとはっきり別れてしまい、水ヨシだけを刈ったら繋がりが途絶えてしまう恐れがあるからではないか。」

このように今と昔では状況が異なるが、今の段階ではどちらの意見が琵琶湖の沿岸帯のヨシ帯において適しているのか、答えは出ていない。

この比較はどちらの意見が正しいかではなく、あくまで、各ボランティアの活動の内容がどちらの意見に近いかという範囲で維持管理の現状をみってみる。

4-6-2 生態学者および生産業者の意見に対するボランティアの維持管理の現状

生態学者の維持管理における留意点は、専門別によって異なるが以下の3点である。

1. 刈り取りは、部分的に残しておく

火入れの場合も全面を焼かず部分的に焼く(鳥・植物)

2. 水ヨシは刈り取らず、燃やさず残しておく(魚)

水ヨシを刈り取る場合は、刈り取り位置を水面より高くする(植物)

3. 刈り取り・火入れ時期の考慮

(魚の産卵期[3月中旬～7月頃]、鳥の営巣時期[春～夏]、集団壱形成時期は避ける[夏])

生産業者の維持管理における留意点は、以下の3点である。

1. 刈り取り・火入れを行うことが絶対条件である

2. 刈り取り・火入れの時期の考慮が必要であること(刈り取り時期は12月末～3月末まで、火入れ時期は3月～4月上旬頃)

3. 水ヨシはできるだけ刈り取り、全部燃やしてしまう

以下のヒアリング項目から両者の意見を照らしあわせ、該当するものに対して印をつけた。

- ・ 刈り取りと火入れの日時
- ・ 水位が高い時の刈り取りに対する対応、考慮すること
- ・ 水際のヨシを刈る／刈らない
- ・ 火入れをする／しない
- ・ 水位が高い時の火入れ火入れの対応、考慮すること
- ・ 水ヨシ焼く／焼かない

表 4-7 生態学者および生産業者の意見とボランティアの維持管理の現状

	刈り取り／ 火入れ	項目	各参加主体											
			大津市 市 民ヨシ刈り	大津市 地域ヨシ刈り (イ)	大津市 地域ヨシ刈り (ロ)	大津市 地域ヨシ刈り (ハ)	大津市 地域ヨシ刈り (ニ)	大津市 地域ヨシ刈り (ホ)	大津市 地域ヨシ刈り (ヘ)	大津市 地域ヨシ刈り (ト)	淡海環境保 全財団 事 業	淡海環境保 全財団 ボランティア	生産業者 NPO	
<生態学者(魚)> * 魚の産卵(3月中旬～7月頃)時期を除く <生態学者(鳥)> * 鳥類の影響(営巣時期:春～夏、 集団形成:夏)の少ない時期 <生産業者> * 12月末～3月末(刈り取り) * 3月～4月上旬頃(火入れ)	刈り取り	刈り取りの日時	●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	
	火入れ	火入れの日時	—	—	—	●○	—	—	—	—	●○	●○		
<生態学者(魚・鳥)> * 水ヨシは刈り取らずに残しておく <生態学者(植物)> * 刈り取る場合、水没しない位置で 刈る <生態学者(植物)> * 一定の残置帯を残しておく <生産業者> * 水ヨシはできるだけ刈り取る	刈り取り	水位が高いときの対応	●○◆			●○◆	●○◆				●○◆	●○◆		
		刈り取りの際に考慮すること	●○◆			●○◆	—		○◆	○◆	●○◆			
		水際のヨシ刈る／刈らない	●○◆			●○◆			○◆		●○◆	●○◆		
<生態学者(魚・鳥)> * 水ヨシは燃やさずに残しておく <生態学者(植物)> * 全面に焼かず部分的に焼く <生産業者> * 全部燃やしてしまう	火入れ	火入れする／しない	●	●	●		●	●	●	●				
		火入れ:水位が高いときの対応	—	—	—	●○◆	—	—	—	—	●○◆	●○◆		
		火入れの際に考慮すること(天候)	—	—	—		—	—	—	—				
		水ヨシ焼く／焼かない	—	—	—		—	—	—	—	●○◆	●○◆		

注) ○：生態学者（鳥）の意見にあてはまるもの ◆：生態学者（植物）の意見にあてはまるもの

●：生態学者（魚）の意見にあてはまるもの 灰色：生産業者の意見にあてはまるもの

—：該当しないもの

刈り取り日時は、生態学者、生産業者の意見にほぼ反映された形となった。

生産業者と NPO の火入れについては、3 月下旬に魚の産卵期に差し掛かる恐れがある。

刈り取り・火入れについては、大津市の市民ヨシ刈りが、最も生態学者の意見寄りの維持管理をしている。次に淡海環境保全財団が続いている。

地域のヨシ刈りにおいては、ハ学区と二学区以外、生産業者よりのヨシ刈りを行っている。ハ学区の場合、市民ヨシ刈りでされている説明があるから、比較的考慮されているよ

うに思われるが、火入れは本来、灯油を用いず火をつけるのみなので、火入れの方法に問題がある。

ト学区のヨシ地は、川沿いに水ヨシが生えている地域であるが、水から上を刈るようにしている。

淡海環境保全財団においても、できるかぎり水ヨシに対しては考慮しているが、生産業者に委託をしているので、水ヨシに対して意見が分かれて、水ヨシを刈っているところもある。生産業者と NPO の対応で、水ヨシを刈っていないのは、昔は、水ヨシを刈る必要があるくらい商品として売れたが、今は、質も悪く商品価値が低いから、刈らずにそのまま燃やしているという。

4-7 まとめ

生産業者のヨシの捉え方は商品としてのヨシなので、維持管理は必須条件である。その中で、自然条件を考慮した中での維持管理が行われている。ところが水位が調節され、上昇することにより、満足に火入れができない状態になっている。最近の水質悪化で、刈り取りが充分でないところもある。

大津市のヨシ刈りは、生態学者の意見を考慮して、維持管理を行っている。

一方で、大津市の地域のヨシ刈りは、生態学者の配慮はないが、地域間の交流の場としてヨシ刈りを行っている。ヨシ地の大きいところは、ヨシ刈りがメインであり、ヨシ地の小さいところでは、イベントメインとなっている。

市からの補助金は各学区一律なのである。北部地域では、刈り取り負担が大きいことと、学区民限定されたイベントに手が回せない一方、南部は雄琴のヨシを使い、イベントをメインで行っているので、「学区一律ではなく、ヨシ地の大きさに応じた補助金にしてほしい。」という不満の声も聞かれる。

淡海環境保全財団では、生態学者の意見を考慮しつつも、維持管理は生産業者がしているので、難しい。大規模な実験を行って上で、今後の維持管理の対応をしようとしている。生産業者と NPO については、今年から新たに NPO が加わり、ボランティアの方針が変更された。生産業者の方は「素人が刈ったものには、商品としては価値はないので、ボランティアは結局お遊びだ」と割り切っている。

参考文献

- 西川嘉廣：ヨシと人の暮らしとの係わり，関西自然保護機構会報，21-2，p301-338(1999)
4-1-1、4-2-1
大津市の環境：大津市環境部環境企画課(2001)
大西政章：湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～，環境システム研究，
Vol. 23，p627-631(1995)
滋賀県琵琶湖環境部自然保護課 HP

<http://www.pref.shiga.jp/d/shizenhogo/dg00a008.html>

淡海環境保全財団 HP <http://www.biwa.ne.jp/~ohmi9/>

湖人（うみんど）：琵琶湖博物館監修, p41-44 (1996)

i 草のちから藁の家:INAX ギャラリー出版,p58-59

ii 湖人（うみんど）：琵琶湖博物館監修,p43,1996

iii

iv そのデザイナーグループと協力して、ヨシを編んだランプシェードやヨシ紙などの試験的な商品開発が行われた。

平成5年にはそれらの商品を集めて近代美術館にて「考えるヨシ展」を開いた。中でも素朴な風合いのヨシ紙に書かれた地元の大津絵は好評で、翌年の「ヨシと大津絵展」につながった。

v 藤原公一,臼杵崇広,根本守仁:ニゴロブナ資源を育む場としてのヨシ群落の重要性とその管理のあり方,琵琶湖研究所所報 16

図

びわこ市民研究所 HP

http://www.shiminken.net/watch/eco_people/nishikawa/top.html

<http://www.biwa.ne.jp/~kawasima/index.html>